

令和7年度 農林水産部組織目標

組織名	農林水産部	部長	花田 潤也
組織の目的・方向性	農業生産基盤の整備・保全と生産体制の強化、販売力の向上を通じて、「儲かる農業」を実現し、持続可能な農林水産業を目指します。 新潟市の豊富な「食」と「農」の地域資源を最大限活用し、食、花に市民が触れ合う機会を拡大し、地域への誇りと愛着を育みます。		
(参考) 関連する総合計画における政策指標※	農業産出額推計値 新潟市の農水産物などに対して誇りや愛着を持つ市民の割合		

※政策指標…目指す都市像の実現や、総合指標の目標達成を図るうえで、各分野において特に重視する指標。各分野の政策指標は市役所全体で共有し、組織横断で目標達成に向けて取り組みます。

農林水産部組織目標

農林水産部では、新潟市総合計画 2030 に基づき、若者に選ばれ、農業、農村が元気になる「儲かる農業」を展開するため、売れる米づくりと園芸産地づくりを推進し、農林水産業を活かしたまちづくりに取り組みます。

重点目標

- 1 農地の大区画化や汎用化を図り、高収益作物の導入を可能とするほ場整備の取り組みを推進します。
- 2 意欲ある担い手への農地の集積・集約化を効果的に推進するとともに、技術及び知識の習得や営農を継続できる環境を整備するなど、多様な担い手の確保・育成を進めます。
- 3 需要に応じた多様な米づくりを進めるとともに、生産技術の課題解決や農産物の生産に対する支援により、園芸産地づくりを進めます。
- 4 食と花、食文化の魅力を発信し、多くの人がその魅力に触れられる機会を提供するとともに、地域一体となって園芸作物の販路拡大やターゲット層に合わせ、時代に対応した販売促進に取り組みます。
- 5 市内の食肉安定供給のため、県内食肉センター再編の具体化に向け、県や関係者と検討を進めるとともに、食肉センターの施設・設備の改修工事を着実に進めます。

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

評価

	重点目標の達成状況	目標数	5	達成数	3
取組結果	重点目標1 (農村整備・水産振興課 組織目標No.1 一部未達成) ・資材費高騰に伴う工事費の上昇などにより、ほ場整備率は前年度から向上したものの、目標達成には至りませんでした。				
	重点目標2 (農林政策課 組織目標No.1 一部未達成) ・認定農業者等への農地集積率は、集約化に向けた話し合いの実施を進めましたが、目標達成には至りませんでした。				

	重点目標 3 （農林政策課 組織目標No.3 達成） ・園芸産地の強化に向けた取組により、産地の園芸産地を後押しし、園芸産地の販売額は前年度から増加しました。 重点目標 4 （食と花の推進課 組織目標No.1 達成） ・関係団体と年間の販売促進計画を共有することで、計画的に事業展開を行い、市産農産物のプロモーションを実施しました。 重点目標 5 （食と花の推進課 組織目標No.5 達成） ・と畜機械の不具合や設備のトラブル等はあったものの施設全体の稼働停止には至りませんでした。また、関係機関と協力し、新潟県食肉センター再編基本構想を策定することができました。
今後の方向性	重点目標 1 ・農業競争力の強化と複合営農に向けた農地の大区画化や水田の汎用化を推進するとともに、地域の要望の応じたきめ細かな整備を計画的に進めます。 重点目標 2 ・機構集積型ほ場整備と集積地区の更新に加え、地域の話し合いを通じて、さらなる農地集積を進め、集積率の向上を図ります。 重点目標 3 ・需要に応じた多様な米生産の取組を進めるとともに、麦大豆の生産支援を通じて水田のフル活用を進めます。また、園芸作物への転換など複合経営と園芸産地の強化を図っていきます。 重点目標 4 ・新潟市園芸作物販売戦略会議を中心に、首都圏市場関係者等に向けたトップセールスを展開していくことで、市内産農産物の多様な販路の確保や農業所得の向上に繋げていきます。 重点目標 5 ・引き続き、食肉センターの稼働を停止させないよう、施設・設備の老朽化へ迅速に対応すること、策定した基本構想の推進を県に働きかけることで、食肉の安定供給を継続していきます。